

第5回検討会における報告書（案）に対するご意見の概要

1. 検討の趣旨

- ・適切な治療と支援で回復可能であることを記載すべき。
- ・自殺対策の上でも重要である。

2. 現状と課題

- ・家族も病識もちにくい。すぐにもう治ったのではないかと考えてしまう。
- ・治療が継続しにくい原因として、治療者の抵抗感がある。
- ・薬物依存症は違法のものだけではない。

(1) 本人や家族が気軽に依存症に関する相談ができる体制の整備

- ・相談窓口としての保健所の記載が乏しい。
- ・市町村が身近な相談窓口として情報提供が出来ること。

(2) 医療機関、行政、自助団体の連携体制の整備

- ・「家族の支援」に関する記載は不要。
- ・家族の支援は違和感。家族の自助グループも記載を。
- ・家族の支援必要不可欠済み
- ・MACを入れること。
- ・場合によっては自助団体を紹介するとはどういうことか。
- ・場合によっては止めて欲しい
- ・依存症の家族支援は形が少し違う
- ・自助グループ、回復施設棲み分けを。（自助団体として一括標記）
- ・紹介についてはポジティブな表現を。
- ・断酒、AA、GA、MAC、DARC の並びカタカナ表記を。

(3) 必要な医療を受けられる体制の整備

- ・インセンティブをもう少し具体的に。
- ・施設に対する補助金、診療報酬など。
- ・特別に名誉を与えるなど。
- ・経済的な援助、金銭的な手当が不足。
- ・アルコールで加算がついたが薬物はない。ギャンブルは特別なものがない。

(5) 地域における本人や家族の支援体制の整備

- ・家族教室も程度にしてほしい。「最も」ではないと思っている。

- ・家族教室だけでなくプログラムも必要。(既に記載)
- ・国民にわかりやすいメッセージを。

3. 今後必要と考えられる取組

- ・より具体的な提言とするなら、モデル地域を使って拓げてゆくような方法がよいのではないか。

(1) 本人や家族が気軽に依存症に関する相談ができる体制の整備

- ・周知については、積極的に使ったような文言を入れて欲しい。

(2) 医療機関、行政、自助団体の連携体制の整備

- ・家族教室をセンターは難しい。保健所にも相談専門員を。
- ・マンパワー足りず手が回らない。マンパワーのバックアップを。

(3) 必要な医療を受けられる体制の整備

- ・拠点について突っ込んだ表現を。
- ・精神科以外の医療関係者に人に対するメッセージも必要。

(4) 当事者の状況に応じた回復プログラムの整備

- ・地域で会場を開放するなど、自助活動が活性化できるような環境支援を市町村、保健所、センターが行う。
- ・整備というよりも環境作りが大切なので、そのような記載に。
- ・回復プログラムの整備とはどういう意味か。プログラムのいいところ取りはダメ。
- ・回復施設の財政援助

(5) 地域における本人や家族の支援体制の整備

- ・本人、家族の支援、普及啓発だけでいいのか。
- ・支援体制に及ぶ具体的な文言を。

4. おわりに

- ・今後も検討会を存続しという文言を是非に。
- ・アルコール依存症、薬物依存症、病的賭博、それぞれの各論の議論も期待されるような記載も。
- ・具体的にどうしてゆくかを考えると、各論で検討会の継続が必要。
- ・3つの依存症の中で格差があるが、この格差が是正される方向が課題として入れられればいていただきたい。

(当日欠席だった構成員のご意見の概要)

- ・保健所が対応すべきこととしては、病院の家族教室などを含む地域の資源の把握がある。また、多重債務者の相談など、実際には依存症者が活用していると思われる保健医療福祉以外の部門との連携も必要。
- ・関係する機関として、地域の福祉サービス事業所もどこかに記載を。
- ・いいところをのぼすだけでなく、全体の底上げができるようにすべき、といった趣旨もどこかに記載を。